

平成 23 年度新宿区外部評価委員会第 3 部会 第 6 回会議要旨

<開催日>

平成 23 年 7 月 22 日（金）

<場所>

区役所本庁舎 6 階 第 3 委員会室

<出席者>

外部評価委員（2 名）

名和田部会長、中原委員

事務局（3 名）

山崎行政管理課長、大竹主査、担当 1 名

<開会>

1 計画事業評価について

【部会長】

本日も外部評価の取りまとめになります。部会としては今日で最後になります。

事務局が外部評価案を作っていますので、こちらを元に取りまとめていきましょう。

最初に計画事業2「特別区のあり方の見直しと自治権の拡充」ですね。事務局ご苦労だけでも、評価案を読み上げてもらえますか。

【事務局】

わかりました。

①「サービスの負担と担い手」、「適当でない」の評価です。理由、「都区間のみならず、行政サービスの受け手である区民を巻き込んだ議論を展開する必要があるのではないか。」

③「効果的・効率的な視点」、「適当でない」の評価です。理由、「当初の計画から 2 年間の遅れが出ているため、効果的・効率的とは評価出来ない。都に対して意思を表明するだけでなく、現状を打開する手段を検討してほしい。」

総合評価の欄です。「適当である」の評価です。理由、「当初の計画から 2 年間遅れて進捗しており、『計画以下』との評価は妥当である。」

「最終年度に向けた方向性」です。「適当でない」の評価です。理由、「内部評価において「第一次実行計画期間内の評価」が 20 年度を除き「計画以下」とされている。23 年度も「計画以下」となることが見込まれている中であって、「最終年度に向けた方向性」を「現状のまま継続」としているのは適当でない。計画どおりの成果が出ていない状況でそのまま事業を継続するのではなく、①欄や③欄にも記載したように区民との協働など手段を改善して進めてほし

い。」

「第二次実行計画への方向性（見込み）」、「適当でない」と評価されております。理由、「最終年度に向けた方向性」欄にも記載したとおり、現状で当初見込んでいた成果が出ていない事業を、そのまま「継続」することは「適当でない」。新宿区、区民、区内団体並びに他区と連携して国や都に働きかける等の手段を模索してほしい。」

「協働の視点による評価」です。「特別区制度改革に向けての運動の盛んだった平成7、8年頃、このような事業は区民との協働により行われていた。この視点を重視して活動してほしい。」

以上です。

【部会長】

この事業の委員会としてのポイントは、「区民を巻き込んだ」とか「区民と協働して」など都や国に対して、もうちょっとインパクトのある行動を組織すべきではないか、そういうものでした。その視点からいかがですか。

【委員】

基本的には、きちんと整理してあり問題ないのですが、「サービスの負担と担い手」欄があまりにも簡素で、なぜこう言ったかについて表記が若干要るのではないかというのが1点目です。

2点目は、「最終年度に向けた方向性」で、趣旨はこのとおり「現状のまま継続」するのは「適当でない」ということなのですが、22年度でこうだった、23年度をはさんで第二次実行計画に行きます、というときに、第二次実行計画でどうするかということの、橋渡しというか、「計画以下」だけでもここで1年しっかりやるというようなニュアンスがなくていいのかなという気がした。この記載が無いのではないか。

23年度で、何かきちっとやって次へつないでくださいというニュアンスがなくていいかなという気がします。

橋渡しとか足がかりとか、そういう形でそれまでの課題を整理し、最終年度だからといって、次につなぐということだけじゃなく、貴重な1年をしっかりとってくださいと、こういう構成。

【部会長】

まあそういうことなのですね。第二次実行計画でリフレッシュして始めるというのを待つのではなくて、すぐやってくださいというのが外部評価委員会の気持ちなのですね。

【事務局】

「サービスの負担と担い手」についてですが、取りまとめの際に議論になったのが、この項目は「適当でない」なんだろうかということです。

このご意見は確かにその通りかと思いますが、「サービスの負担と担い手」、この場合担い手の話になるとと思いますが、「適当でない」なのかなという話になりました。

【部会長】

これ、「サービス」の中身が、人によって受けとめ方が違うかもしれないですね。

今のような特別区制度の中で新宿区役所が行っているサービスということなのか、それとも、この特別区自治権の拡充という事業のことをサービスと言っているのか。

【委員】

私は後者にとりました。

【事務局】

それによって、ちょっとニュアンスが変わってくるので、ここを「適当でない」としたときにどうなのだろうという話が出たのです。

以前の3部会の議論ですと、サービスの「担い手」に焦点を当てて、都と区というのではなくて、それに区民も加えて、つまり担い手に区民が足りていないのではないかというご議論で、「適当でない」と評価がついたと記憶しているのですが。

【部会長】

この事業そのものが一つのサービスという意味で議論をしていたわけですね。

負担と担い手という点で、区民という担い手を十分活用してないのではないか。サービスの担い手という観点で区民と協働して、都に対して進めていくべきだということですね。

【委員】

そういう意味なのですよ。

これは区にとって非常に大事なことであり、区の行政のあり方そのものに関わる事業だから、いわゆるエンタープライズみたいな意味で、基盤みたいな事業。だから、それがきちっとしないとだめだという意味で区民も一緒に立ち上がらなければ、これは解決しない。あるいは区民の具体的な問題意識がなければ解決しない、こうあるべきだという意味。

【部会長】

サービスというのは、まさしく特別区制度の改革そのもののことを、というのが委員の理解で、そうすると区民もサービスの担い手に含まれ、要するに協働ですよ。協働で区民もサービスの担い手として巻き込んでいないのは得策でない、そういうことです。

【事務局】

それなら大丈夫だと思います。実際のところ区の内部評価に対しての評価ですから、区はどうすべきだというところが抜けているのかなと思ったのですね。

【委員】

全部に区民を巻き込めというわけではない。ステップを踏むなど焦点を絞って、この点だけはやろうという強い総意を区民からもらってそういう問題に取り組むやり方が、都と協議していく上で状況を前進させ得るのではないかと思えた。

【部会長】

例えばオリンピック招致なんか、そうやっておられますよね、自治会にも協力いただいてね。

【委員】

何か場をつくるとかね。ステップを踏んでというのは、何かアクションプログラムを持ってという意味です。

【部会長】

あと③「効果的・効率的な視点」で「適当でない」。これ行政側は、それなりの言い分があると思うし、内部評価報告書でも一部入っていると思うけれど、何といても2年間の遅れが出ているのに効果的というのは、区民としては素直には納得しがたい。これはいいですか。

次に3「NPOや地域活動団体等、多様な主体との協働の推進」です。

【事務局】

「第二次実行計画への方向性（見込み）」です。「適当である」評価です。理由、「枝事業が多く、その一つ一つが区民の関心の高いものであるため、事業全体の成果を測ることの出来るよう評価指標を改良してほしい。第二次実行計画では数年間課題として検討しているアウトカム指標を設定すべきである。多様な区民の活動を支援する重要な事業である。今後は区民や団体による活動を発展させるために団体の養成や育成の計画を加えてほしい。」

以上になります。

【部会長】

これはよろしいでしょうか。

では次4「町会・自治会及び地区協議会活動への支援」です。

【事務局】

「総合評価」です。「適当である」です。理由、「東日本大震災などにより、町会をはじめとする地域コミュニティの重要性が見直されつつある。その視点から町会や地区協議会への支援を行う本事業は有効である。事業目的の達成に向けて活動していると評価するが、マンション住民の町会加入率が低いなど、問題は残っている。第二次実行計画への方向性が『手段改善』とされていることから、区としてもより効果的な手法を検討しているものと評価するが、第一次実行計画の最終年度にあたる23年度についても、改善への強い意志を持って取り組んでほしい。」

「第二次実行計画への方向性（見込み）」です。「適当である」評価です。理由、「第1次実行計画中の内部評価は、町会・自治会と地区協議会を一体的に内部評価していた。実際にはこれらは性格の違う団体であり、このことが外部評価の混乱を招いていた。第2次実行計画ではこれを踏まえ、評価項目毎に『町会・自治会』と『地区協議会』、それぞれについて整理したうえで内部評価してほしい。また、現在は地区協議会の位置づけが明確でない。条例などにより地区協議会の位置づけが明確になった時点で、別事業として展開してはいかがか。」

「協働の視点による評価」です。「区民の活動を支援するものであり、地域の実情にあった新しい事例を取り上げるなど積極的に動機づけしていくような手を打ってほしい。」

「その他意見」です。「町会・自治会や地区協議会の規模や実行力は地域によって異なる。地域ごとの町会・自治会及び地区協議会の現状にも気を配りながら支援して行ってほしい。」

以上になります。

【部会長】

いかがですか。

【委員】

この事業を遂行していく上での運営上の議論というか、当初の目的からずれていないかという意見なので、この事業の持つ意義そのものについては、前向きに評価するということについては全く異存もない。

【部会長】

それが最後の改善への強い意志を持って取り組んでほしいというところにあらわれている。

それから「など」は何なのか。よく行政でも、「など」というのは何なのとか、条例等と書いてあると「等」は何なのですかと、よく聞かれるわけなのですからけれども。

だから、去年との関わりをもって有効であるというより、改めるべきところは素直に改めて、しっかりやらなきゃならないという意見を出す。

もっと言えば、去年まではこの制度そのものありきで、その制度のマネジメントについていろいろ意見を言ってきたけれど、改めて、この制度そのものの持つ意義というものの重要性に勘案した議論を、もう一度しなきゃいけないというところまで我々は追い込まれていますよねと、こういうニュアンスです。

だから重要性がますます高まり、その視点から、この事業について、もう一度踏み込んだ検討をすべき時期に来ていると、そういう基本認識だということです。

見直しというのは、区民が、でしょう、どっちかというところ。

自治会の加入率が上がっているわけですよ。阪神淡路のときもそうだった。一時持ち直している。でも現在はまた下がっている。同じようにならないよう今回はこの高まった加入率を維持できるようにしっかり事業をやってください、ということですね。

ではこれでいいということで。

次は5「地域を担う人材の育成と活用」です。

【事務局】

「第二次実行計画への方向性（見込み）」です。「適当である」評価です。理由、「幅広い年代の参加ということ強く意識している点に期待している。22年度区長の総合判断でも示されたが、人材育成と人材活用が一体的に行われるように講座のあり方を見直してほしい。いわゆる『団塊の世代』が今後の地域を担っていくものとする。彼らに参画してもらえようという取り組みに期待する。」

「協働の視点による評価」です。「地域活動・社会貢献活動を担う人材を育成するための講座を、行政が直営するのではなく、NPOに委託するなど民間のノウハウを活用している自治体がある。新宿でもこのような試みを検討してほしい。」

以上になります。

【部会長】

これは、いかがでしょうか。

町会・自治会長への希望講座等アンケートの結果を検証していくことを所管課は考えているようだけれど、それだけじゃ足りないんじゃないかという議論でした。

気持ちとしては団塊よりも、どっちかという若い人というところが重点にあった。この点については幅広い年代と書いているから、まあいいかなと思っているのですが、いかがですか。

【委員】

そうね、何か団塊だけになっちゃっているような感じはしますよね。

この「協働の視点による評価」に、新しい世代の人に担ってもらうというような表現を頭に入れて、そのための人材育成というニュアンスを加えてはいかがか。

【部会長】

でも確かに団塊の世代についても重要なターゲットですよ。これを強調している点はいいのではないですか。

では「協働の視点の評価」に、若い世代を含めた人材とか、あるいは、動向でもいいですけども、それを加えていただけますか。

次について38「新宿区勤労者・仕事支援センターによる就労支援」です。

【事務局】

「総合評価」です。「適当である」評価です。理由、「コミュニティショップ（ふらっと新宿）や『サテライトオフィス』との連携による就労支援など、地域ボランティアとの協働、協同運営が実効をあげている点を高く評価する。」

「第二次実行計画への方向性（見込み）」です。「適当である」評価です。「今後ますます必要となる事業であり拡大に期待する。第一次実行計画で培われたノウハウを活用しながら総合的な就労支援事業として展開して行ってほしい。特に若年者について、就労後の定着に向けた取り組みが重要となっている。22年度区長の総合判断でも定着支援を行っていく旨が述べられているが、第二次実行計画にあたってはこの点を評価指標に組み込むなど精力的に取り組んで行ってほしい。」

以上になります。

【部会長】

これはよろしいかと思いますが、いかがでしょう。

では次に76「文化・歴史資源の整備・活用」です。

【事務局】

「第二次実行計画への方向性（見込み）」です。「適当である」評価です。理由、「第一次実行計画では夏目漱石がクローズアップされている。第二次実行計画では地域活性化の観点から埋もれている地域の文化財の活用について区民と共に考えて行ってほしい。東北地方では東日本大震災により多くの文化財が失われている。新宿においても大地震の発生が危惧されており、東北地方と同様に文化財が失われる恐れがある。震災から貴重な文化財を保護するため、保存事業基金の創設なども検討してほしい。」

以上になります。

【部会長】

出された意見はまとまっていると思います。

では78「文化体験プログラムの展開」をお願いします。

【事務局】

「第二次実行計画への方向性（見込み）」です。「適当である」評価です。「『芸術体験ひろば』や『夏休みこども文化体験プログラム』など、現在実施されている内容については、幅広いプログラムに多数の参加があり高く評価している。今後は予算的な問題もあろうが、新宿区という大都市であることを考えれば世界に向かって発信するという観点があっても良いのではないか。また、現在は1日限りのイベントが多いようだが、例えば月1回など定期的に開催されるイベントがあっても良いのではないか。イベントの内容についてもさらなる充実を期待する。」

「協働の視点による評価」です。「新宿で活動している団体や外国人などとの協働に期待したい。」

以上です。

【部会長】

前回の議論を反映していただいていると思います。

では80「新宿文化ロードの創出」です。

【事務局】

「第二次実行計画への方向性（見込み）」です。「適当である」評価です。理由、「単なるイベントではなく産業振興にもなる事業であると評価する。今後はこの特性を生かし、規模の拡大や事業効果を生む方向への舵取りを期待する。」

「協働の視点による評価」です。「区内の企業や学校等との連携に区民目線も加えて事業を深掘りしていることを高く評価する。」

以上です。

【部会長】

「規模の拡大」とまとめていただいたのですが、前回の議論だと「地域を拡大」という趣旨だったと思うので、その部分については「対象地域の拡大」という表現に変えてください。

では次に81「文化芸術の創造性を活かした地域産業の新たな展開への支援」をお願いします。

【事務局】

「第二次実行計画への方向性（見込み）」です。「適当である」評価です。理由、「産業振興には事業者だけでなく、それを使う消費者ニーズの先取りや意向も要素として取り入れることが重要と考える。関係各課所と連携を密にし、横断的に環境整備をしていくことが望ましい。第一次実行計画における区内中小企業の経営力の強化など地域産業振興の支援実績を高く評価している。第二次実行計画への移行に当たって、一部の枝事業を経常事業化することのだが、経常事業化の準備が整った枝事業については順次経常事業化していくことが望ましいのではないか。今後の枝事業の経常事業化のタイミングについて検討してほしい。」

以上です。

【部会長】

これも前回議論があったところですけどもどうでしょうか。反映されているでしょうか。ではこれでいいといたしましょう。

では82「新宿の魅力の発信」ですね。

【事務局】

「第二次実行計画への方向性（見込み）」です。「適当である」評価です。「観光は地域の活性化や産業振興にもなり、多くの事業をつなぐ役割を持っている。『国際都市』新宿の観光という、重要な事業の拡大に期待する。」

「協働の視点による評価」です。「歩きたくなるまち新宿観光案内所や新宿街歩きガイド運営協議会と連携することについては高く評価する。これに加えて、例えば『かたりべ』の実施など地域のボランティアなどとの連携も模索して行ってほしい。」

以上です。

【部会長】

前はバスのことという話があったと思うのだけど。

【事務局】

所管課に地域バスを走らせる予定があればということで、第2回部会のときに現在そういった予定が無いことは確認していたため外しました。

【部会長】

これはいいでしょう。

では続きまして84「商店街活性化支援」です。

【事務局】

「最終年度に向けた方向性」です。「適当でない」評価です。理由、「単なる商業の場ではなく災害時に街を守るなど多くの役割を持っている商店街であるが、新宿のような都心部でもライフスタイルの多様化への対応、後継者不足、生鮮食料品と中心とした店舗数の減少など様々な課題を抱えている。このような商店街、地域への活性化支援は急務であると考えられる。この視点からの改善をすぐにでも検討実施してほしい。」

「第二次実行計画への方向性（見込み）」です。「適当である」評価です。理由、「商店街が活性化することは、昨今のデフレ下での雇用創出、地域防災、生活環境面の整備など幅広い課題解決に有効である。商店街が持つ今日的な役割に即した事業内容に進化させてほしい。」

「協働の視点による評価欄」です。「商店街の役割を地域の生活者が理解し、町会や自治会活動との連携を深めるなど、自らの生活基盤づくりとして、地域住民が参画して事業展開がなされるような仕組みが必要と考える。」

以上です。

【部会長】

「最終年度に向けた方向性」は、書く必要はないかもしれないけれども、東日本大震災があったので、現段階からすぐにやってほしい、そういう気持ちですね。

【委員】

そうですね。

【部会長】

入れたほうが伝わるというか、「最終年度に向けた方向性」を「適当でない」とした理由が伝わりやすいと思います。

商店街については、この外部評価で僕も関心を持ってきたことの一つで、衰退商店街について、きちんとした手を打っていくという方向が出てきたのは、私としてもうれしく思います。

それでは85「平和啓発活動の推進」です。

【事務局】

「第二次実行計画への方向性（見込み）」です。「適当である」評価です。「重要な取組みであり、新宿区と新宿区民の見識を示す事業として発展継続して行ってほしい。」

以上です。

【部会長】

これはいかがですか。

【委員】

去年補助事業評価でこのテーマをやって、そのときはもう少し厳しかった。

平和を考えるとということなどの意義を、整理しながら、しっかり把握して事業を進めてください、そういうニュアンスにしたいのですけれども。

戦後65年以上たっている。子供たちにこういった問題を風化させないために、この事業の継続性は非常に重要であるとか、そういう表現を頭にくっつけたほうがいいと思う。

【事務局】

この事業の重要性、こういう点で重要だ、だから継続して行ってほしいということですね。

【委員】

内部評価は非常によくできている。きちんとしたとらえ方で、なかなか文学的な表現も入っていて、いい内部評価だと思います。これを参照して書いてもいいと思う。

【部会長】

ではそのようにもう少し文章を整理しましょう。

「第二次実行計画への方向性（見込み）」では、事業趣旨を少し冒頭のところに書き入れていただき、重要な事業であることの中身を、外部評価委員会としても共有したような、そういう、言葉を足した書き方にする。よろしいでしょうか。

では続きまして86「地域と育む外国人参加の促進」です。

【事務局】

「第二次実行計画への方向性（見込み）」です。「適当である」評価です。理由、「第一次実行計画の期間において、新たな指標を設定し事業の透明化を図るなど、外部評価委員会の意見を取り入れることで事業が改善されており、この点を高く評価する。今後拡大される事業に大いに期待する。」

「その他意見」です。「新宿区は多くの外国人が住んでいる。国際都市として在住外国人か

ら新宿の魅力を世界に発信してもらうことは、観光事業などにも役立つ。この視点からも本事業には期待している。」

以上です。

【部会長】

私の認識ですが、「外部評価委員会の意見を取り入れ」については、指標の追加というところより、プラザの位置づけが明確になったというところを、高く評価しています。

元々はプラザの来場者が増えればいいみたいな割と単純な話が当初はあったのが、区全体の拠点としてやっていくという位置づけが明確化されたのです。

もうちょっと地べたのところではいろんな活動はやられるべきだし、実際やられています。「事業が改善されてきている」というのは、プラザの位置づけが中間支援的、区全体の国際交流的あるいは、その外国籍市民との交流を推進するような取り組みの一つの拠点になるのだという視点が割とはっきりしてきたというところでは。

指標の追加というのは、プラザが区全体の拠点として機能していることのあかしですね。そういった点が、私から見ると改善なのですね。だから、指標の改善もそうなのですけども、多文化共生プラザの位置づけを明確化するとともに新たな指標を設定した、するなどという、表現にしましょうか。

新宿多文化共生プラザの位置づけを明確化するとともに新たな指標を設定し、外部評価委員会の意見を取り入れることで事業は改善されており、この点を高く評価する。どうでしょうか。

【事務局】

はい。わかりました。

【委員】

②「適切な目標設定」について、「改善が必要」と内部評価していることについて、エールを送ってもいいと思う。

【部会長】

言ってあげたほうが本当は素晴らしいですね。総合評価で書きましょうか。

【委員】

目標設定の改善など、最終年度あるいは第二次実行計画への足がかりをつけるために、事業の改善を図っていこうという、その取り組みについては評価したい、エールを送りたいと、そういうニュアンスですね。

【部会長】

ではそういうメッセージを総合評価で送りましょう。ではこの事業はよろしいでしょう。

次、ここからは区政運営編ですね。

89「区政情報提供サービスの充実」です。

【事務局】

「総合評価」です。「適当である」評価です。「CMSの導入により各課からの情報更新がタイムリーになった点は評価できる。」

「第二次実行計画への方向性（見込み）」です。「適当である」評価です。

「システムの定着を目指すとともに、災害等緊急時の情報発信方法など区としての情報発信のあり方を検討してほしい。」

以上です。

【委員】

「総合評価」の意見は必要ないと思う。

「区政情報サービスの充実」というのがCMSだけだというふうにつまみ食いされてしまう。外部評価委員会として、CMSに全面的に賛成だったわけでもないし。

【事務局】

どうでしょうか、総合評価のところを外してよろしいでしょうか。

【部会長】

はい。「総合評価」は取りましょう。

区政情報編はまだ慣れませんね。なかなかつかめない。

では92「行政評価制度の確立」です。

【事務局】

「総合評価」です。「適当である」評価です。理由、「新宿区においては、内部評価制度は既に定着し、また外部評価についても3年にわたる仕組みの開発と実証段階を経て行政評価ツールとして活用されている。第二次実行計画に向けて行政評価手法の見直しを行い、より効果的・効率的な評価手法を検討してほしい。」

「第二次実行計画への方向性（見込み）」です。「適当である」評価です。「全庁的に評価制度は定着したが『評価の文化』が定着したとはまだ言えないと思われる。第二次実行計画では、新たに実施する『経常事業』及び今回評価対象に加わった『計画事業（区政運営編）』に対する外部評価のあり方について、平成20年度から実施している『計画事業（まちづくり編）』と同程度の定着化を目指すことが喫緊の課題である。区民サービスの向上と適正な区政運営を目指して引き続き頑張ってほしい。」

「協働の視点による評価」です。「区民による外部からの視点を入れた行政評価手法については高く評価する。多様な視点から評価が行えるように、委員の推薦団体を選定する方法を検討してほしい。」

以上です。

【部会長】

この取りまとめで、よろしいでしょうか。

委員の選定については前回議論のあったところです。

【委員】

委員の推薦方法だけを検討すればいいのかというような、あるいは委員の選定方法が、そんなに悪いのかという感じがする

委員の任期とか委員の選定とか、その他、その議事の進め方とか、そんなことできるか、わ

からないけれども、そういうようなもろもろのことにおいて、さらに一段の工夫が必要ですよと、そういうことじゃないかと思う。

【部会長】

前は、団体の議論が中心でしたね。

【事務局】

多様な視点から評価が行えるように、この外部評価委員会の運営が、そういうふうに行えるように、もっとよくなるように努力してねというような形で書いていただけると、いろんなことが中に含まれる。

【部会長】

不断の工夫をすべきだと。

【委員】

そう。委員の選任は重要だから、その中にはどういう見識の人を入れるか、年齢構成はどうする、男女比はどうするか、期間をどうする、改選の方法はどうするとか、そういう多様なことを考える必要がありますということだと思う。

【部会長】

ではそこについては推薦団体という論点は外して、委員の選任が重要であるという趣旨の指摘にすることでお願ひします。

次に95「人材育成センターの開設による分権時代にふさわしい職員の育成」ですね。

【事務局】

「第二次実行計画への方向性（見込み）」です。「適当である」評価です。理由、「分権化時代に向けて、独自の企画や都との交渉等にも係わる人材の要請拡大は必要である。」

「協働の視点による評価」です。「現場を大切にする職場風土から分権化時代への対応は拓ける。現場課題の解決を通じて、能力を開発するとともにセンター自体がノウハウを蓄積していく。そのためには区民の参画を取り入れた手法の開発が必要ではないか。」

「その他意見」です。「現在の内部評価の内容は簡素で読み取りづらい。今後は内容を充実し、外部の人が読んでも理解できる評価結果を公表するよう努めてほしい。」

以上です。

【部会長】

いかがですか。

【委員】

「第二次実行計画への方向性（見込み）」の、「都との交渉」というのは要らないのでは。

この事業の目的に、「都との交渉」は入っているのかな。分権化時代を実現していくプロセスの中で都との交渉は入ってくるけれど、この事業の趣旨から外れていると思う。

【事務局】

計画事業2「特別区のあり方の見直しと自治権の拡充」と関連づけてのご意見かと思ひます。趣旨が違っているということで、取ってよろしいですか。

【部会長】

ここについて前回、あまり議論していないのですが、確かに今、卒然として見ると、何でここに都の話が出てくるのかと思いますね。例えば分権時代を担う職員の資質というのは、もうちょっと、いろいろあると思う。昨今言われている法務能力とか、あるいは地域で付き合い能力とか、当然コーディネート能力とか、その中で都との交渉力というのがあるとは思いますが。

それで、この意見を取っちゃうと「第二次実行計画への方向性（見込み）」の意見がなくなってしまう。「協働の視点による評価」に書いてあることをこっちに移しますか。都との交渉は、確かにあまり実は議論しないまま、文字が残っている感もありますので、しかし、都との交渉というのを取っちゃうと独自の企画、企画力だけの話になってしまいますので。

【委員】

この事業が徐々に軌道に乗っているということは認めるが、「分権化時代にふさわしい職員」を育成するということはどういうことか、とかく議論になる問題だと思う。

【部会長】

企画立案に関わる提案力ですね。独自の企画というのもそれなので、この点はここに書く、一つの材料かな。「第二次実行計画への方向性（見込み）」への意見については、企画立案に係る提案力、この資質と能力開発が重要であるということを指摘するのと、現場を大事にするということ、この2つを書いて、「協働の視点による評価」には区民の参画を取り入れた手法の開発も必要ではないかと、これだけを残したらどうでしょうか。

それと、「その他意見」に書かれていることは報告書全体の共通事項として、全体の委員会でも問題提起したいと思いますので、ここに必ずしも書かなくてもいいと思う。ここだけに書いてあるのは、むしろ変で、区政運営編の内部評価全体に通ずる問題点として、全体の委員会でも提起して外部評価報告書の、どこか全体を通ずる案に書くほうがいいかもしれないですね。

【事務局】

そうしますと、「その他意見」は外してよろしいでしょうか。そうすると同様の内容が入っている96「新宿自治創造研究所の設置による政策形成能力の向上」も外すこととなりますが。

【部会長】

外しますか。96も外します。こちらの意見は全体会で詰めるということで。

では最後の96「新宿自治創造研究所の設置による政策形成能力の向上」です。

【事務局】

「総合評価」です。「適当である」評価です。理由、「区民目線で政策形成に役立っていることがわかるような、単年度で成果の見えるものを積み上げることで組織としての評価が高まる。第二次実行計画に向けて、このような視点から第一次実行計画の取りまとめをしてほしい。」

「第二次実行計画への方向性（見込み）」です。「適当である」評価です。理由、「現在の事業内容については評価できる。しかしこの種の庁内シンクタンクは、財政事情に左右されがちである。長く続けなければ意味が無いものであり、継続して欲しい。職員の政策論議

のプラットフォームとなるとすばらしい。」

「協働の視点による評価」です。「情報収集や問題の洗い出しについては、区民の知見を活用して感度合わせをしながら進めるなどの工夫が必要になる。塾型の勉強会はこれに適していると考えられるため、このような視点からも研究を進めてほしい。」

以上です。

【部会長】

これはいかがでしょうか。

改めて整理すると、単年度で見えやすい成果を出してほしいということと、長く続けてほしいということが矛盾するような感じもします。

【委員】

人口とか外国人とか集合住宅のような基礎的なそのものをやるというのが、中長期的にやっていくシンクタンクの基本的使命であるということを確認した上で、それに関連するカレントトピックスを提供するなどして区民の評価を、あるいは財政的な支援が得られるようにしていくのが、こういう研究機関の上手な運営方法ですよということで、いいのではないのでしょうか。

【部会長】

このご意見はとてもよくわかります。文科省がやっている科学研究費補助金というのがあります。あれは、本当に基礎研究を大事にするという趣旨なのですが、やっぱりカレントトピックスの研究テーマは通りやすい傾向がある。それは、国民に対する説明ということなのですね。国民に対する貢献があったことがわかるような成果報告書をつくってくれとか。

一般には、わかりにくいかもわかりませんので、総合評価の文章の冒頭のところに「基礎的研究を積み重ねる一方で」というのを付加して趣旨を明確化するというので、どうでしょうか。

【委員】

いいと思います。

【部会長】

ではここについてはそのようにいたしましょう。

こちらで一通りになりますか、何かございますか。

【委員】

92番の評価に、これまで議論があった現地調査の必要性とかヒアリングのやり方とかそういう話をのせなくていいのでしょうか。

【部会長】

それは全体会の中で話し合った方がいいと思いますね。

そこで書くのは適当かどうかわからないのです。半ば、その4年間やってきた感想みたいなものなので、どっちかという、例えば各部会長の一言みたいな、前書き的みたいなものが、あれば、そこで述べるのもいいと思います。

【事務局】

外部評価委員会で取りまとめというか、4年間の総括を今年やっていただくことになります。

その中で、例えば今後の評価はどうしたほうがいいのかとか、そういうのを書いていただければと思います。

【部会長】

それが適当だと思います。

はい。これで、今日の部会は終了でよろしいでしょうか。

どうも、ご苦労さまでした。

<閉会>